

最近、「無縁社会」とよく耳にするようになった。テレビや本でもよく特集されている。それほど、現在、血縁・地縁・社縁が失われ、人と人のつながりが急速に薄れているということだろう。では、「今」を生きる私たちは血縁・地縁・社縁が固く結びついていた「有縁社会」の時代に戻れば良いのだろうか。それとも新たなつながり、縁を作っていけば良いのだろうか。無縁社会を考えることは、日本の現状や将来を考えることにつながっている、そう思った。

そもそも、私自身は無縁社会のなかで生きているのだろうか。私は無縁社会とは無縁であると思う。なぜなら、私には、いつも傍にいてくれる家族がいるからだ。家族との絆は太くて強い。それに、私は将来、好きな人との子どもを産んで、家庭を築きたいと思っている。大学に入ってからは、ボランティア活動を通して、多くの人と出会ってきた。人と人とのネットワークを拓けることができた。私の周りには沢山の縁があり、無縁社会のなかで生きているということを実感することは極めて少ない。

しかし、だからといって自分と無縁社会を切り離して考えてはいけないのだろう。それこそ、無縁社会で生きている人たちとの距離をますます遠くし、孤立した無縁社会を作り出してしまうのではないか。日本が、無縁社会となってきていることは事実である。孤独死が増え、未婚者も増え、様々な縁が失われかけている。無縁社会が日本に浸透しないように、私自身がくい止めていかなければいけない。

無縁社会を昔のような有縁社会に戻すことは難しい。無縁社会は個人主義を求め、経済発展するプロセスを得て結果として生まれた社会であるからだ。「個人」でいることを好み、結婚せず、誰にも見つけられることなく「孤独死」をする。悲しいことであるが、これは「個人」でいることを好んだ人の一種の生き方である。

ではなぜ人は「個人」を好むにも関わらず、「孤独」を恐れるのだろうか。人は、生まれた直後から「社会」に属している。その社会は家族であったり、学校で会ったりと、「個人」と「社会」は切り離すことができない関係にある。自分の周りには「他者」が存在し、自分の生命を維持するためにも「他者との共生」が必要となってくる。「他者とともに生きる」この人間が生まれた直後から身をもって感じる「共生社会」という概念によって人は「孤独」を恐れるのだろう。「社会」の中に「自分」という場所を欲し、居場所を求めようとするのではないだろうか。「孤独」からの脱却には、他者が必要不可欠だ。「個人でいること」と「孤独であること」この二つは似ているかもしれないが相反するものである。このことを胸に留めて生活すべきなのではないだろうか。

無縁社会を有縁社会に戻すのではなく、無縁社会で生きている人たちに対して政府がどのような政策をとるべきなのか、その人たちが安心して生活するために何ができるのかということ日本は考えていかなければいけない。そして何よりも、日本が作り出した無縁社会の中で自分自身がどう生きていくか、を考える必要がある。

無縁社会を生きていく私たちに必要なのは、新たな「つながる場所」だろうか。私はそういう場所よりも「つながる力」が必要なのではないかと思う。人とつながるツールは昔と比べて沢山ある。インターネットの普及により、SNS やブログによるつながりが増え

た。こういったつながりが新たな縁となるかもしれない。こういったように多種多様になった縁の形を私たちがどう活用していくかが重要であろう。

私は、就職氷河期と呼ばれる今、大学に通い、社会に出るための準備をしている。就職率も低くなっていて、私自身、就職活動に対して不安を抱いている。だが、生きていく手段、道は沢山ある。大学生であるうちに、様々なコミュニティで様々なネットワークを築いていきたい。そして、「つながる力」言わば「コミュニケーション能力」を身につけ、無縁社会を生きていきたいと思う。

私の頑張れる原動力は紛れもなく「ひと」だ。誰かの笑顔の為なら、辛いことがあっても乗り越えることができる気がする。やはり、「共生社会」の中で人は生きているのだと思う。

東日本大震災が起きたいま、改めて人との「つながり」、「共生社会」を見直してみるべきだろう。人間は一人では生きていけない。そう実感した出来事であった。人と「無縁」であったら生きていけない。何か大きなものを失ってしまうと思う。人との縁を大切にしていくことは、今の私にも簡単にできることだ。私が新たなつながりを作れば作るほど、新たな縁が作り出されていく。私が誰かの縁を作ることもできるだろう。例えば親になったとき、自分の子どもの縁づくりを促すことができる。将来子どもができたなら、「マンションのエレベーターで人にあったら、ちゃんと挨拶しようね。」と、しっかりと教えようと思う。そういった小さなことを大切に、自分の周りの縁を大切にしていきたい。

きっとこれから、もっと沢山の縁が私を待っている。どんな縁に出会えるのか、今から楽しみだ。